豊田氏と清水氏の

ちょっと行ってみいへんで！

～徳島県阿南市・東方の島「伊島」散策～

夏の猛暑も過ぎた9月10日（日）、阿南市、伊島の散策に出かけました。

伊島は四国の最東端・阿南市蒲生田岬の東方海上約6kmの紀伊水道に浮かぶ島で、室戸阿南海岸国定公園に指定され、希少植物が自生し、貴重な野鳥が飛来するなど手つかずの自然が残されています。周囲には無数の荒磯があり、グレ・チヌなどの磯釣りのメッカでイセエビ・アワビ・サザエなどの好漁場で、周囲約9.5km、人口は約200人。

朝8時30分、答島（こたじま）発の連絡船「みしま」（写真❶）に乗り橘湾の景色を見ながら30分の船旅で伊島港に着きました。当日は丁度祭りの時期で、「蛭子神社」の「幟旗」がたくさん立っていました。前日は「当所神社」の祭りがあって、次の日は「竜宮神社」の祭りと伺いました。伊島の祭りは、神輿（みこし）❷が海の中に入ることでも有名です。

港から民家の並ぶ狭い通りを北東方面に行くと、「當所神社」❸（蛭子神社）があります。昔、漁師の網にかかった神様をお祀りしてあるそうです。石段を下りてきて建築中の伊島若者定住促進住宅の所を左折し、「伊島小・中学校」❹を左に見ながら約200mで資材置場を過ぎるとすぐに「伊島保育所」があります。

幅約2mのコンクリート舗装された道の随所に［ささゆりトレッキングコース］の立て看板があります。最初に伊島一の絶景地と言われる「カベヘラ」へ長い石段を登っていきます。紀伊水道が一望でき、牟岐大島も見える断崖に着きます。❺大きな洞穴があり、条件が良ければ高さ30mの潮を噴き上げるのが見えるそうです。

そのまま遊歩道を進んで行くと、地蔵峠に着きます。出発からここまで約1時間半。ここから数分間坂道を登って行くと四国最東端の地にある「伊島灯台」（標高124m）❻に着きます。樹木が生い茂っていて視界は良くないです。地蔵峠まで戻って遊歩道を進みますが、舗装ができているのでとても歩きやすいです。

また、ここから西国三十三番ミニ霊場巡りの参道となっています。順に参拝していくと、8番と9番の

間から野尾辺の湿原❼（全国湿原500の一つ）の全景が見渡せます。昔は稲作が行われていた所だそうです。さらに進むと、12番から16番にかけて「イシマササユリ」❽の群生地があり、5月下旬から6月上旬にかけて、花を見ることができます。

さらに進むと、舗装が無くなり歩きにくくなりますが、三差路に突き当たり、右に坂道を行くと最終33番があり、2分で「観音堂」❾に到着。扉はしまっていましたが、地元の人に、開けて参拝してもいいと聞いていたので、扉を開けて参拝しました。本尊は十一面観音菩薩ですが、現在は港近くの「松林寺」で大切に保管されているそうです。「空也」上人との関わりが地元に伝わっています。

湿原まで石ころだらけの道を下りて行きます。途中「通夜堂（前仏堂）」❿があります。冬に餅投げが行われるそうです。さらに石道を下って行くと湿原に出ます。現在は、カヤの原っぱです。⓫湿原の中を横切る道を通り、再び山道を登り「地蔵峠」を目指します。途中で「旧道（近道）」の看板がありましたが、道中後半は、蚊に悩まされていたので、元来た道を選びました。夏季は防蚊対策が必要です。

峠からの下り道で、町全体が見渡せる展望所やダム湖があり、ダム湖では多数の金魚が泳いでいました。町まで戻って来たら12時40分。約3時間半の行程はハイキングに最適ですが、年配者にはきつい運動になると思います。

伊島を訪れる人は、美味しい料理が食べられると思って行くかと思いますが、事前に予約を入れないと何も食べることは出来ません。旅館は2軒あり、一泊7,000円から、素泊まりは3,500円から。昼ごはんが無く私たちが困っていたら、ある旅館のご主人がラーメンなら出来ると作ってくださいました。ビールを注文すると、アジのみりん干しの後、やり繰りし、刺身2種盛りも提供していただきました。午後2時半ごろ、神輿が海に入るのを写真に収めようとして、滑って海に入ってしまいました。おかげでカメラは壊れてしまいました。水際の乾いてない所は危険です。ご注意ください。

島の人はみな親切で、年配のご婦人に「これから島をめぐる」と言えば「家の蚊取り線香を持って行け」と心配してくれましたし、ある男性は島のことを詳しく教えてくれました。漁協の商店も日曜は休みです。伊島は、男性の海士が潜水具を使っての漁業を始めた地として有名です。伊島出港の午後4時まで7時間ありゆっくりできますが、昼過ぎの便もあります。